岡崎市立城北中学校　校長通信

校長室の窓から

～校訓　真面目・精一杯　自主・自律～

２号

令和５年５月１５日

城北中学校長
山　本　則　夫

知的好奇心に火をつける

先週、本校で学校保健委員会が行われました。講師として、名古屋学芸大学の鈴木かをる先生をお招きして、「みんなで考えよう自分も相手も大切にするコミュニケーション」をテーマにお話を聴きました。講演では、まず簡単な動作から思考のタイプを４つに分けました。そして、それぞれの特性を知った上で、コミュニケーションをとることで理解が進むという内容でした。

講演の内容もたいへん興味深かったですが、私が感動したのは、最後の質疑応答の場面でした。講演が終わり、司会の先生が、生徒の皆さんに「質問がある人はいますか。」と呼びかけたところ、会場が静まりかえりました。会場には３年生全員と保護者もいます。１・２年生もオンラインで見ています。こういった場面では、なかなか手が挙がらず、気まずい空気が流れます。

しかし、一瞬の静寂の後、3 年生の男子生徒の質問を皮切りに、次々と手が挙がりました。またその質問の内容がよかった。４人目の質問、「僕は、“誠”のタイプ※だったんですけど、友達にはそう思われていません・・・(笑)」いずれも素朴な疑問で、会場の緊張感も解けました。講師の先生にも丁寧に答えていただきました。質問をしてくれた生徒の勇気を称えたいと思います。

そういえば、以前、岡崎高校の先生と話しているとき、「本校の生徒は、講演会などで質問や意見を求められると必ず手が挙がります。」と誇らしげに話されていたことを思い出しました。これは決して学力が高いことだけが理由ではありません。「知的好奇心」が高いことが理由です。知的好奇心とは、物事に興味や関心を抱いた上で「もっと深く知りたい」と思う気持ちのことです。「これはなんでこうなってるんだろう？」と、新しいものや珍しい事象に出会ったとき、どんどん知りたくなる気持ちは人間にとって、とても大事な感情です。岡崎高校と城北中学校の生徒の共通した一面が見えました。私も外で自慢します。

城北中の先生にも「知的好奇心」を揺さぶる授業をめざしてもらいたいと思います。知的好奇心が高い子供は、日常生活の中でさまざまな発見をしていきます。子供が自ら「知りたい！」と思ったときが、学力を伸ばす最大のチャンスです。

※“誠”タイプ…左脳・左脳タイプ　論理的で計画して実行し、まわりから信頼される。